

# 春は桜

林田 明

ようやく 草花や樹木は芽ぶき 春がやって来た。開花日も 早くなってきたように 若人達も 入学、入社を 待ち構えている。住宅地の桜も少なくなってきたが 桜をみると 春を実感する。

日本で桜は 昔から親しまれてきており、満開は華やかさを、散りはてると無情だが 新しく考える機会ともなる。

有名な吉野や 醍醐寺の桜は思い出に残っているが その時代の権力者の集会などに利用されることもあった。最近では 「桜を見る会」[1952-2021年]が 問題となり中止されたりしている。個人やグループの花見の会も 騒音やゴミ処理などで問題にされることもある。

私(達)の現役時代には 咲く花の下で 課やグループ単位で集り 日頃のうっぷんをはらしたり 親睦をはかったものだが、つながり、絆を深める場でもあった。

時代に応じて考え方も変わり またコロナ騒ぎの時期があったりして 今の世代の人達は このような集いには 関心がうすくなってきているように感じている。

しかし 春は桜をみて 新年度を前に気分も新たにしたい。 暗いことの多い今の社会状況を過去と類比し 未来を考えて欲しいと思う。

私達の楽しみは 年々心身の衰えと共に減少するが 季節によっても影響されることが大きくなってきた。 夏、冬は楽しみより 猛暑と寒さに耐えるのがたいへんになっている。

今年も春を迎えられ 浮かれることはないが 気分が明るくなり 生きる喜びを感じる。

「ねがはくは 花の下——」ではなく 体調に応じて 近くの桜を見に行きたいと 思っている。

皆さんも どうぞ お元気で……